令和6年度第2回 新宿区リサイクル清掃審議会 議事要旨

1 日 時 令和6年7月31日（水）午前10時～正午

2 場 所 新宿区役所本庁舎5階大会議室

3 出席者

【委員】

出席（17名）

会 長	小野田 弘 士	副 会 長	崎 田 裕 子
委 員	小 池 幸 恵	委 員	藤 井 練 和
委 員	唐 沢 吉 治	委 員	安 井 潤一郎
委 員	西 郷 直 紀	委 員	松 永 健
委 員	宮 崎 冴 子	委 員	丸 山 勝 子
委 員	田 中 孝 幸	委 員	山 田 和 男
委 員	高 野 健	委 員	遠 藤 友紀子
委 員	松 岡 滋 郎	委 員	渡 邊 翠
委 員	村 上 道 明		

欠席（4名）

委 員	奥 真 美	委 員	松 川 英 夫
委 員	松 永 多恵子	委 員	須 貝 俊 司

【新宿区】

ごみ減量リサイクル課長、環境対策課長、新宿清掃事務所長、清掃事業担当副参事、
ごみ減量計画係長、新宿清掃事務所事業係長

4 次 第

(1) 開 会

(2) 委 嘱

新宿区長より、第13期の委員21名に対し委嘱状が交付された。また、委員の互選により、会長を小野田弘士委員、副会長を崎田裕子委員と決定した。

(3) 議事等

① 令和6年度主要事業について

【資料1】

② 新宿区一般廃棄物処理基本計画（改定）における施策の実施状況について【資料2】

③ 令和5年度 区が収集するごみの処理量・資源の回収量について

【資料3】

(4) その他

第13期の委員名簿の区ホームページでの掲載について了承を得た。

(5) 閉会

5 議事内容

上記議事について区から説明し、質疑応答を行った。各委員からの質問や意見、区の回答の要旨については以下のとおり。

① 令和6年度主要事業について

質疑なし

② 新宿区一般廃棄物処理基本計画（改定）における施策の実施状況について

○**渡邊委員** 食品ロスの削減協力店は確かに増えているが、区内に飲食店が数千ある中では、さらに増やしていかなければならないと思う。

○**事務局** 現在、区の実組であるエコ自慢ポイント制度により、食品ロス削減協力店をより利用してもらう環境を作っている。また事業者を接する機会として食品衛生大会で説明しており、今後も周知啓発していく。ただし、指摘のとおりインセンティブは不十分であるため、登録してもらうメリットも引き続き検討していく。

○**崎田副会長** 他の集まりで3Rの実組を議論する機会があるが、事業者の意識は高まっているので、より高めていくためにもさらなるコミュニケーションが必要だと感じている。また、区ではモニター調査も実施しているが、記録者の食品ロス量が当初から36%減少したデータがあり、測るだけで意識は変わっていく。このように実際に意識啓発につながる具体的な取組みを進めていければと思う。

③ 令和5年度 区が収集するごみの処理量・資源の回収量について

○**松岡委員** 区収集ごみが令和3年度以降減少傾向にある要因は何か。

○**事務局** 区民のリサイクル意識の高まりだと考えている。

○**宮崎委員** 区の昼間人口と夜間人口は2.5倍の違いがあるが、これをどのように捉えているか。

○**事務局** 指摘のとおり、昼間人口が多い分、それが事業系ごみとして現れる。引き続き事業者へごみ減量を働きかけていく。

○**渡邊委員** 区ではマンションが増えているので集団回収の団体も増えるが、他の一般の団体では高齢化に加えて住民同士のつながりが希薄になっており、機能が低下していると思

う。この点を考慮して集団回収の課題を見てほしい。

○**事務局** 区として、今後も集団回収を促進していきたいと考えている。今年度のアンケートではマンション管理組合、地域団体を分けた形で実施して属性ごとの課題を的確に把握していく。

○**唐沢委員** ペットボトル、ビンについて、それぞれ本体と蓋が分けられていればリサイクルコストが低減されると思う。

○**事務局** ペットボトルの回収では、本体と蓋、フィルム部分について分けて出すようお願いしている。特に、ペットボトルのキャップとラベルについては資源として回収しているので、その点周知に取り組んでいる。

○**藤井委員** プラスチックの分別や食品リサイクルについて、大きなビルの事業者への指導をまずは指導してほしい。特に、プラスチックの分別では、リサイクルできない汚れたものを出す事業者もいる。

○**事務局** 区では延床面積1,000平米以上のビル、事業者に対し指導しており、廃棄物管理者を1棟の中に置くこと、再利用計画書を提出することとしている。また立入検査も行っている。ただし指摘のとおり、場所によって意識の差が大きいため、さらに踏み込んで啓発を進めていく。

○**宮崎委員** 資源を個人事業者が無断で回収しているのを見たことがある。資源の回収について、区はどのように動いているのか。

○**事務局** 資源回収については、区が回収する行政回収と地域の住民が回収する集団回収がある。行政回収については持去りを禁止しているが、所有権が明らかでないため警察も取り締まらなると聞いている。一方、集団回収は資源を引渡すことで対価を得るため、資源は財物であり、窃盗の対象である。区では平成26年に違法回収の規制について条例化する検討があったが、違法収集とはいえほとんどはリサイクルに回す零細事業者であり、そこにまで加罰する必要性は低いという当時の区長の判断により見送りとした。

○**丸山委員** 集団回収の中の新聞と段ボール、雑誌の割合を教えてほしい。また、新聞販売店が新聞の回収をよくしているが、それはどちらの収益になるのか。

○**事務局** 古紙について、令和5年度の新聞は613トン回収している。雑誌は1,662トン。段ボールは4,431トンであり、コロナ禍で通販の需要の高まったことの影響で段ボールが非常に多い状況である。新聞販売店の回収利益については、詳細は把握していないが恐らく販売店の利益になっていると考えている。

○**松岡委員** 持去りの取締りの対象にできるよう、資源回収を行政でなく集団回収のみとして進めることは可能か。

○**事務局** 住民にとっての利便性の観点から、集団回収のみに移行することは考えていない。

○**小池委員** 古紙の抜取り、資源の持去りについて、多摩地区では条例があるが、新宿区では整備されていない。この点、区には整備を進めてほしい。

○**事務局** 条例化しても実際は効果が薄く、指導権限がある職員がパトロールして指導に周ることが考えられるが、古紙の需要が高い時は早朝や監視の薄いタイミングで回収しており、困難な状況がある。しかし、古紙にGPSを仕掛けたり、違法業者からは買い取らないように呼び掛ける等の対策の話を聞いているので、様々なやり方を踏まえて対応していく。

○**高野委員** 個人の意識を高めるのは重要だが、町連の会議では清掃関連の議論が他の多くの話題によって流されてしまいがちである。行政が集まりの中で一つずつ直接説明をしていくしかないのではないか。

○**事務局** 指摘のとおり、個人が意識を高めて全体でレベルアップしていくことが重要。特に関心の低い若者世代に、若いうちから意識を高めていく事業を検討していく。

○**遠藤委員** 洋服や古布を資源化してほしい。また、エコ自慢ポイントのように、デジタルでの情報提供を進めてほしい。

○**事務局** 古布については資源買取が困難な状況があるが、集団回収がなじむのか、行政回収でのリサイクルがなじむのか、まず検討していく。また、区のリサイクルフェスタやリサイクル活動センターの洋服ポスト等を活用いただきたい。

デジタルの情報提供については、10月の啓発月間に限らず日頃から意識してもらえる形でプッシュ通知して発信を進めていく。

○**松岡委員** 集団回収で最も困っているのは、空き缶の回収である。業者は、アルミ缶とスチール缶が混入していると回収しないため、事前に町会で分別して渡している。その点はしっかり周知していただきたい。

○**松永（健）委員** 分別のことも含め、集団回収について全体に教育する必要があると思う。

○**田中委員** 自分の周囲でも集団回収の辞退の声が上がっている。しかし1キロ6円の対価がある集団回収がなくなるのは町会の収入から見ても厳しいので、今後のやり方を町会で

検討するところだったが、やはり継承していくべきだと感じている。

○**事務局** 行政回収としてはアルミ缶とスチール缶の分別は考えていない。一方、集団回収については、業者によっては混入していても持っていく者がいるので、その点は業者との交渉によるところだと考えている。集団回収のPRについては、広報紙「すてないで」の中で全面的に集団回収特集号として今年度発行する予定である。啓発についても、分別についての動画を制作し、広く周知していく。また清掃事務所では施設見学会を実施しており、日本製鉄の工場の見学が好評のため、今後もこのような啓発を心がけていく。

○**西郷委員** 事業者、企業側にとしても。環境リサイクルについて積極的に取組まなければ経営として成り立たない時代になっている。そうした意識をもって事業者にも周知啓発に協力していきたい。

○**山田委員** 現在戸別収集が進んでおり、それによって分別がしっかりされる、ごみ出しの日にちが守られる等の意識の変化を地域で感じる。他方、集合住宅では困難な状況ではあるが、清掃事務所とその都度個別での指導をする等、地道に活動していけば意識の変化につながっていくと思う。

○**崎田副会長** 7割近くの自治体が家庭ごみの有料化を実施しているが、その制度にはごみ減量の意識につながる側面がある。今後の重要な施策として、有料化制度を区民から考えていくという気持ちを持つことは大事だと思う。

○**小野田会長** 分別の話題の関連として、私の研究室で、飲料容器をロボットで分別することを研究している。現在は江東区の民間の事業者のところで、東京都と夏の期間実証を行っている。声をかけてもらえれば、見学も可能。

また、資料3の確認だが、令和6年度以降、容器包装プラスチックの回収量はどのように報告していくのか。

○**事務局** 容器包装プラスチックは、これに製品プラスチックを加えた「資源プラスチック」として、分類を変えて報告する。

以上